観光情報
インフラ
整備計画
tourinfo.jp

観光IT政策
観光情報インフラ整備計画
趣意書

私達は2020年東京五輪に向けた「おもてなし」の観光体験デザインと、それを可能にする観光情報インフラの整備計画を、民間から政策として提案します。この文書では、政策提案プロジェクトの概要を説明します。
（プロジェクト発起人：石橋秀仁）

この文書の目的と想定読者

- この文書は「政策提案プロジェクト趣意書」であって、「政策提案」そのものではありません。いずれ政策提案をまとめて発表します。
- まだ各種組織・団体に対して公式に提案するような段階ではありません。
- 現時点では、プロジェクトの概要を説明し、協力者を募ることが目的です。

提案プロジェクトの成果物（予定）

- 「2020年の観光情報の全体像（エコシステム）」と「その利用体験（ユーザー・エクスペリエンス）」を青写真として示します。
- その実現に必要な観光情報インフラ技術を具体的に提案します。
- 公共投資の経済合理性を評価するため、予算規模と経済効果規模を推定します。

提案の骨子

このプロジェクトは日本が「観光立国」として飛躍するための観光IT政策を提案します。カギは政府・自治体のウェブサイトを次世代ウェブ技術 リンクト・オープン・データ **(LOD)** に対応させることです。それにより日本には世界最先端の「観光情報インフラ」が出来上がります。それは**2020**年の東京五輪までに実現可能です。素晴らしい観光体験を提供するための情報インフラになります。それに終わらず、LODインフラは将来に渡ってずっと社会の役に立ちます。情報化時代の社会共通資本となるのです。つまり、「観光政策」であり「IT政策」でもあるような「観光IT政策」を提案します。

キーワード

観光立国、2020年東京五輪、リンクト・オープン・データ (LOD)、社会共通資本、おもてなし、観光体験、ユーザー・エクスペリエンス・デザイン、8K 3Dテレビ、パブリック・ビューイング、訪日外国人、インバウンド・ツーリズム、多言語化・国際化、ピクトグラム、ユニバーサル・ツーリズム、アクセシビリティ

政策提案のカギとなるコンセプト

リンクト・オープン・データ (LOD) の観光情報インフラ

「観光情報インフラ」のカギとなる技術は リンクト・オープン・データ **(LOD)** といいます。「リンクされている公開データ」という意味です。ウェブの発明者であるティム・バーナーズ・リー卿と、ワールド・ワイド・ウェブ・コンソーシアム (W3C) が推進しています。次世代ウェブの構想です。

政府・自治体の保有するすべての観光情報を、LODで公開します。それが「LOD観光情報インフラ」になります。インフラ自体は直接人々の観光や生活の役に立つわけではありません。インフラ上のアプリが人々の役に立ちます。重要なのは、LOD観光情報インフラの存在が、多様なアプリを出現させるということです。

肥沃な大地には豊かな実りがあります。政府・自治体の観光情報ータをLOD化することで、ウェブの情報空間が「肥沃な大地」となるのです。そこには多様な観光アプリが開花することでしょう。

「空き時間」を埋める観光アクティビティ提案の「おもてなし」

すべての観光情報がリンクト・オープン・データ (LOD) になった世界では、まるでSF映画のような観光体験が実現します。細かい検索条件を指定して調べなくても、「いま」「ここ」で必要であろう情報を「察して」的確な情報を提供することが可能になります。

観光客がモバイル端末に向けて「面白い場所は？」「面白いイベントは？」と問いかければ、一瞬で適切な答えが返ってきます。「いまいる場所」付近の情報が瞬時に入手できるのです。観光客が「次は何をしようかな」と旅行ガイドブック片手に手持ち無沙汰で過ごすことはありません。観光情報インフラが「空き時間」の活用を支援します。

事前の旅行プランを考える段階でも、「オリンピック競技の空き時間」に有意義な観光アクティビティを入れることができます。観光客は、あらかじめPCやスマートフォンのスケジューラー（カレンダー）に、自分が観戦する予定の競技スケジュールを入力しておきます。する

と、スケジューラーには「この空き時間を使ってできる観光アクティビティ」の候補が自動的に提案されます。

LOD観光情報インフラは、観光客の空き時間活用を支援し、充実した観光体験を提供します。それはすなわち観光消費の増加につながります。

大画面8K 3Dテレビが全国を「五輪会場」にする

2020年東京五輪の外国人観光客を、東京以外の各地に送客することが観光政策上の課題です。それを可能にするのは、東京の「交通ハブ機能」と、観光情報インフラの「情報ハブ機能」と、そして大画面**8K 3D**テレビを備えた全国の「パブリック・ビューイング会場」です。

2020年には「8K」の高精細3Dテレビがあります。100インチ級の8K 3Dテレビを備えた飲食店は「パブリック・ビューイング会場」になることができます。それらの会場情報も、リンクト・オープン・データ (LOD) 観光情報インフラで検索可能です。

「目当ての競技を確実に観戦したい」という客のニーズに応えたい会場（飲食店など）は、「五輪生放送チャンネル・スケジュール」を公開するでしょう。「この店は、何時に、どの競技をやっているのか」が事前に分かります。会場スタッフがそのようなデータを作って公開するのも簡単です。

このように「東京に縛られずとも五輪を楽しめる交通×情報インフラ」が実現すれば、「五輪を現地で観戦すること」にこだわらない観光客が全国に散らばっていくでしょう。五輪の経済効果が全国に波及します。

観光情報の国際化・多言語化・ユニバーサル化

観光庁が「多言語対応の改善・強化のためのガイドライン」をとりまとめました。そのなかではピクトグラムの活用が推奨されています。交通エコロジー・モビリティ財団は「標準案内用図記号」（ピクトグラム）を提供しています。

リンクト・オープン・データ (LOD) 観光情報インフラでは、観光情報作成者（自治体職員など）がピクトグラムを用います。例えば下図は「温泉」のピクトグラムです。温泉施設には、このピクトグラムをつけます。

温泉
Hot spring

LOD観光情報インフラは、観光情報の共通語彙をピクトグラムとして整備します。共通語彙の例としては「駐車場あり」「禁煙」「車椅子可」「音声案内あり」「英語応対可」などがあげられます。おそらくは数百から数千に及ぶでしょう。それらを「標準ピクトグラム」として提供します。

LOD観光情報インフラは、ユーザーの言語にあわせてピクトグラムの説明文（キャプション）を提示します。例えば上記の「温泉」ピクトグラムの場合、日本語ユーザーには「温泉」が、英語ユーザーには “Hot spring” が、中国語（繁体）ユーザーには「溫泉」が、韓国語ユーザーには「온천」が提示されます。

これは「観光情報の多言語化作業は一元化できる」ということを意味しています。個々の観光情報作成者（自治体職員など）は、単に提供されたピクトグラムを使うだけでよく、せいぜい施設名・イベント名などの表題文言（固有名詞）に英語を併記するだけでよいでしょう。それだけで、観光情報の多言語対応・国際化が実現します。観光情報を多言語化・国際化する運用コストは、日本全体で見れば大幅に削減できるのです。

ピクトグラムはLODとして実現されているので、観光情報の検索条件として使うこともできます。例えば「いまこの付近で温泉に行きたい」という検索をすれば、近場で「営業時間内に到着可能」な温泉施設が表示されるでしょう。施設条件をさらに細かく指定できます。「バリアフリー」「送迎あり」など。

高齢者・障がい者等の移動制約者を含む、誰もが旅行を楽しむことができる「ユニバーサルツーリズム」の推進になります。また、ピクトグラムは音声読み上げ技術に対応するので、例えば視覚障がい者にとっての情報バリアフリー（情報アクセシビリティ）も進みます。

社会共通資本としてのリンクト・オープン・データ

リンクト・オープン・データ (LOD) のインフラを世界に先駆けて日本で実現すれば、観光産業だけでなく、IT産業の振興にもなります。LOD観光情報インフラの莫大なデータを誰もが無料で利用できます。それを利用して民間企業が新規事業を立ち上げるでしょう。新たな事業と雇用の創出で、政府の経済成長戦略に貢献します。

プロジェクトの現状（ステータス）

このプロジェクトはまだ最終成果物を発表する段階に至っていません。協力者を募集しています。下記の問い合わせ先まで、お気軽にご連絡ください。

現在は「観光情報サービスの設計ガイドライン」を制作しています。人々が観光情報を利用する状況（コンテキスト・オブ・ユース context of use）の整理です。具体的な観光情報サービス設計のための設計ガイドラインになります。

この設計ガイドラインをもとに具体的なシナリオを書き、「2020年の観光体験」のコンセプトムービーを作ります。人々に具体的な価値をイメージしてもらうためです。

詳しくは：近未来ITコンセプトムービー事例集

我々のプロジェクトのアプローチは、抽象的な「インフラ」そのものを訴求しません。インフラの上で提供されるサービスが、人々にどのような価値や体験を提供するかと提示します。つまり、人々の欲望を喚起します。「それはすごい」「それは欲しい」と思わせるようなサービスを提案したのち、「これを実現するためには観光情報インフラの整備が必要です」と説得するアプローチです。

本件に関する問い合わせ先

発起人石橋秀仁のメール、Facebook、Twitterへお気軽にご連絡ください。

プロジェクト公式サイト：tourinfo.jp

この文書の履歴

- 初版 2014-01-31
- 最終更新 2014-02-25（追加校正 2016-08-17）

付録資料集

- なぜこのプロジェクトを始めたのか
- 成果物の定義、進め方、ステークホルダー
- 観光情報サービスの設計ガイドライン
- 近未来ITコンセプトムービー事例集
- 実現されるサービスのイメージ

- LODによる多言語化・ピクトグラム化
- パーソナルデータとプライバシー
- 緊急警報のアクセシビリティ
- 行政的な観点
- ~~観光情報エコシステムの全体イメージ~~
- メモ